

『復活の呪文』

20歳
year

作
泊
篤
志

【登場人物】

木町（大学生。男）

神田（専門学校生。男）

森山（海外を放浪。男）

村上（男3人と同級生。女）

小学校の同窓会にやってきた木町と神田。

埋められたタイムカプセルを約八年ぶりに掘り起こし、それぞれの手紙やアイテムが手元に渡っていて、それを持ち、皆とは離れ、かつての教室にやって来た。

2人は小・中・高校までずっと同じ学校だったのだ。

教室に入ってきた木町と神田は、しばしかつての教室を懐かしんだり、「机、こんな小さかったんだ」など、教室の印象を語ったりする。

木町　で、何が入ってた？

神田　え、あ、手紙？

木町　手紙はもちろんそうだけど、アイテムの方。

神田　アイテム…っていうか、え、アイテム入れるってそういうルールだっけ？

木町　ルールっていうか、手紙だけじゃあれだからって、何となく誰かが始めたんじゃないっけ？

神田　（取り出しながら）これがそれなんか…？

神田が取り出したのはポケモンのフシギダネが描かれた自作のカードだ。

木町 カメの絵？のカード？

神田 これフシギダネだよ。

木町 ふしぎだねだよ？って？

神田 ポケモンの。

木町 あー、はいはい。フシギダネ！

神田 のカードね、たぶん自分で作ったカード。

木町 これをタイムカプセルに？

神田 うん、手紙と一緒に。

木町 フシギダネ、好きだったっけ？

神田 いやー、ポケモン全般は好きだったと思うけど、フシギダネ単体が好きだったかどうかは分かん

ない。

木町 でも、入れたんでしょ？

神田 入れたんだろね。記憶にないけど。

木町 …不思議だね。

神田 え？

木町 いやいや、今のは、言葉としての「不思議だねえ」ってことで。

神田 ダジャレですか？

木町 ダジャレじゃねえよ。

神田 じゃなんだよ。

木町 つい、出ちゃったアレだよ。

神田 つい出ちゃったアレは、親父ギャグだぞ。

木町 親父ギャグじゃねえよ。

神田 まだ二十歳だというのに。

木町 これでもまだ十九なんだよ。

神田 え、まだ二十歳になってなかったっけ？

木町 来月、二十歳。

神田 え、二十歳でタイムカプセル開けるって約束じゃん、いいの？十九が開けていいんだよ二十歳になる年だし、ていうかも開けたし。

神田 (語り) えー、我々2人は、小学校の同窓会に来て、当時、八年前に埋めたタイムカプセルを

掘り出し、その出てきたアイテムの謎について喋っている、わたくし神田と。

木町 わたくし、木町と申します。小学校同窓会なんですが、我々2人は小中高と十二年間ずっと一緒だった…という珍しい関係なんです。

神田 ま、でも、めっちゃ仲良かったってことはなく。

木町 部活とかもぜんぜん別だし。

神田 何となく、長年一緒だよ、くらしい仲間…かな。

木町 もう一人、森山ってのが仲間に居たんですけど、今日の同窓会は欠席。

神田 欠席っていうか、連絡が付かないまま、今日を迎えた、という状態です。

木町 森山にも会いたかったんですけどね。

神田 木町は？何が入ってたの？アイテム。

木町 これがまた不思議なんだよ。

と、木町は消しゴムを取り出す。

神田 消しゴム？

木町 に何か描いてる。

神田 虫の絵…？

木町 裏っ側には。

神田 「蚊が焼いてる」って字が書いてるね。蚊ってこれ、その、刺したりする虫の蚊だろう？

木町 うん。

神田 蚊が、焼いてる？焼いてるって何？焼けてるじゃなくて？

木町 焼いてる、って書いてるね。

神田 (消しゴムを裏っ返して) この虫が蚊で、あー、確かに蚊のまわりが赤く、炎みたい…。

木町 不思議だろ？

神田 不思議だね。

木町 え、だから(神田の持つてるカードを指して)フシギダネ？

神田 いやいや、別に木町のとセットじゃないし。

木町 ま、そっだよね。

神田 でも自分のフシギダネも訊わからんわー。

木町 この消しゴムなんなん。小6の俺、なんなん？

神田 小学校6年の木町は、タイムカプセルにこの消しゴムを入れた。八年後の自分に向けて。

木町 「蚊が、焼いてる」…意味不明。小6の俺！なんなんだよ！

神田 手紙の方に何かヒントがあるんじゃない？

木町 確かに！

神田 ということで、2人は当時書いた「二十歳の自分へ」という将来の自分に宛てた手紙を読み返してみました…。

木町 どうだった？

神田 え、何が？

木町 何がじゃねえよ、手紙、読んだんだろ？

神田 まあ、もちろん。

木町 で、神田は泣いたの？

神田 泣いてねえよ。え、木町、泣いたの？

木町 泣いてねえよ。んで、何て書いてあったの？

神田 小6の言うことやもんね。

木町 うん、小6の神田くんは何て？

神田 「大人になったら、サッカー選手になりたいです」って。

木町 おー、キタね、サッカー選手。いやー俺もよ俺も。

神田 サッカー選手？

木町 サッカー選手。

神田 そんなサッカー好きだったっけ？

木町 小6ん時は、ほら、男子はもう。

神田 あーね。男はだいたいみんなサッカー選手やったもんね。

木町 今の小学生は、ユーチューバーになりたいらしいよー。

神田 今どきやねー、夢があるんだか無いんだか。

木町 5年後にユーチューブが残ってたらいいけど。

神田 残つとるだろー、ユーチューブは残るだろ。もし無くなっても、ユーチューブ的な何かはある

だろー。

木町 みたいな、核心に触れない、わりとどうでもいい話をしていた時、もう一人の仲間。

神田 小中高十二年間一緒だった仲間、森山が。

木町 今日、来ないはずの森山が。

神田 突然、現れたのだ。

森山、登場。

森山 おー、いたいた。

木町 え？

神田 え？

森山 久しぶり！

木町 え？

神田 え、森山？

森山 そうだけど。え、何？そんな幽霊でも見るような目で。

木町 いや、お前、今日来ないんじゃないの？

森山 えー、来ちゃダメだった？

神田 そうじゃないけど、でも、幹事が、日高が、森山は連絡付かなかったって。

森山 いやいや、メールが来てさ、返信してたんだけど、俺からの返信が日高側で弾かれてた…みたい
な？

木町 あー、なるほど。

神田 日高には…。

森山 会った会った。あいつ、めっちゃ太ったな。

木町 それよ、二十歳で中年太りかよって。

神田 それで森山、お前、どこで何やってんの？

木町 外国で放浪してたとか聞いたんやけど。

森山 いや、そのまんまよ。あちこち放浪してて。現地で働いたり。

神田 えー、え、卒業してすぐ？

森山 まあ割とすぐに。

木町 いつ帰ってきたの？

森山 一昨日。

神田 帰ってきたばっかじゃん。

森山 卒業して…3年だっけ？一度も帰ってなかったしき、同窓会はいきっかけだなんて。

木町 お前、ちよつと…、何か凄いな。

森山 凄かねえよ、外国に行つて、帰ってきたってだけだろ。

神田 いやいや、俺らには真似できんわ。

森山 あと、お前らとの約束もあったしな。

木町 約束？

神田 って？したっけ？
森山 えー、マジかよ。
木町 ああゴメンゴメン。
神田 いや、俺たち高校卒業するとき、そんな仲良くはしてなかったし。
森山 違ええよ。
木町 え、なに。
森山 小学校を卒業する時だろ。
神田 え？
木町 小学校を卒業する時に？
神田 約束を？
森山 マジか…。
木町 え、ゴメン…。
神田 で、約束って、どんな？
森山 八年後、大人になって、同窓会で会おうって。だから、タイムカプセル埋めたんだろ。俺たちが
言い出しっぺだったんだぞ。
木町 あー、なんか。
神田 そんな事もあったかなーって思うけど、でも、それも八年前の事だし、中学ん時も高校ん時も
そんな話し…。
木町 したらなかったやないか。
森山 あー、まあ、わざわざ約束したよね！って確認するのもおかしいだろ。
神田 まあ、確かにな。
木町 男子が、そういうのもな。
森山 で、手紙、何て書いてあったんだよ。
神田 まー、ありがちな…ね。
森山 小6の神田くんは何て？
神田 「大人になったら、サッカー選手になりたいです」って。

森山 はいキタ、サッカー選手。

神田 ありがちなんだよ。

森山 で、木町は？

木町 えー、神田と同じくサッカー選手になりたいって。

森山 2人とも？

神田・木町 うん。

森山 そんなサッカー好きだったっけ？

木町 小6ん時は、ほら、男子はもう。

森山 あの頃、あれだ、ワールドカップがあつて。

神田 そうそう、本田とか香川とか。

森山 岡崎とか、活躍しててね、で、監督が…。

木町 岡ちゃんだよ。

神田・森山 懐かしい岡ちゃん。

木町 まあ、そんな時代だよ。

神田 で、森山は？

森山 俺は…（手紙を取り出して）「ぼくは、大人になったら世界一周したいです」って書いてある。

木町 すげえ。

神田 実現してんじゃないん。

木町 え、子どもの頃からの夢？

森山 そう…だね。

神田 そんな話してなかったよね？

森山 でも、世界っていうのも、たぶんワールドカップの試合とか、そういう国際大会を見て、世界

は広いんだなって思ったんだよね。確か。

木町 へー。

神田 同じサッカーを見ながら。

木町 こっちはサッカー選手とか夢みたいなこと言ってる。

森山 世界一周も夢みたいなものだろ。
神田 でも、ホントに行っちゃったつてのが凄いわ。
森山 凄くねえよ。飛行機で、行っちゃえば誰だつて行けるよ。
木町 物理的にはね。でも、俺とか、実際には行けない人間ばつかだよ。
神田 なんか、恐いし。
森山 俺、恐さより、楽しさが勝っちゃうんだよな。
木町 俺はさ、小さい頃から、何になりたいとかそういう夢を持ったことがないんだよ。
森山 サッカー選手は？
木町 だからそれは、皆が書いてるのと同じこと書いとこーくらのあれだよ。
神田 俺はもうちよつとなりたかつたと思うよ、サッカー選手。
森山 でもサッカー選手にはなつてねえんだろ？
神田 (笑いながら) なつてねえよ。
木町 森山は有言実行だもんなあ。
森山 まだ何にもなつてないし。
神田 え？
森山 海外に行つただけだもん。行つただけ。何にもなつてない。
木町 将来、何になるの？
神田 旅行会社とか。
木町 あー、いや、森山はそういう企業に勤めるつてイメージじゃないなあ。
森山 木町はさ、サッカー選手になりたかつたあと、中学ん時は何になりたかつたの？
木町 あー、…笑うなよ。
森山・神田 笑わねえよ。
木町 おれ、医者になりたかつたんだよねー。
神田・森山 マジで？
木町 つて中学んとき言つてた気がする。
神田・森山 聞いたことねえよ。

木町　うち貧乏だったからさ、医者つて金持ちのイメージじゃん。だから。
神田　でも、高校に入ると。
木町　いやいや、中央高つて時点で医学部とかもう無理だろ。
神田・森山　だよー。
木町　あと、我が家にそんな財力なかったし。
森山　生まれながらの格差社会でやつだ！
木町　そうそれよ！現実見ちゃうとき、やりたいものとかそういうイメージがゼロになるわけよ。
神田　でも、大学には行つとるんやろ？
木町　行つとるけどさ、何になりたいとかコレを勉強したいとか、そういう目的？とかなーんもなくなつてっからさ、もうね、ただ行つとるだけなんよ。（と、窓を開けて運動場に向かって叫ぶ）
来の結論を先延ばしにしとるだけ！
吠えるねー。いや、先延ばし、別に悪かないだろ。
木町　まだモラトリアム期間が2年あるしさ、今のうちに楽しんでこつかなつて。
神田　まあ、そうだよーね。
森山　神田は？どうなの？
木町　専門学校だっけ？
神田　あ、うん。そう…だよ。
木町　お前けっこう頭良かったじゃん。だから、あ、大学じゃないんだーって。
森山　何で専門なんだろっ…とは思ってたかも。
神田　おれ、声優を目指してて。
木町・森山　おー。
木町　そっち系ね。
神田　どっち系だよ。
木町　いや、芸能的な方面な訳でしょ。
神田　まあ、そだね。
森山　それ高校ん時から？

神田 そう、憧れてて。

森山 アニメとかが…好き。

神田 そうそう。

木町 そういうふうに見えんかったなあ。

神田 仲間内には言ってたけど。

森山 こっち側の仲間にはねー（木町に）聞かされてなかったけどねー。

木町 ねー。いやー、こっちはそういう話する感じやなかったし。

木町 まあそうね。え、森山にも言ってたなかったん？

森山 聞いてないねー。え？

神田 うん、言っていないけど。

木町 森山は、俺より神田と仲いい感じやったし。

森山 そうだっけ？

神田 でもまあ、見事にみんなバラバラだな。

森山 まだ何になるか分からない大学生、声優志望の専門学校生。

木町 世界を放浪する…。

森山 ただの人。

神田 いやいや、只ならぬ人だな。

木町 森山は、将来っていうか、このあと、どうすんの？

森山 それがさ、わっかんねえんだよなあ。

木町 世界、見てきたんだろ？

森山 分かったことはさ、世界から見たら、俺らとか、ホントちっぽけな存在だってことだけだよ。

木町・神田 おおー。

森山 茶化すな。

木町・神田 ……すまん。

森山 貧しい国はとことん貧しい。腹を空かせた子ども、道端に倒れてる老人、それを物珍しそうに眺

めている俺。なけなしの小銭を恵んでも焼け石に水だ。何もできない。

木町 お前、どこに行ってたんだよ。

森山 アフリカとか中東とか。いまだ戦争やつてる国があんだぞ。政治家と企業がすべての富を吸い取ってる国もある。

神田 お前はさ、その経験はさ、絶対何かになると思うよ。

森山 そうかな。

木町 そうだよ！そんな…俺にはそんな体験はできんし。

森山 でもな…、俺さ…。

と、同窓会のメンバー、村上が現れる。

村上 あ、いたいた。

木町 おー、なんだ、村上さんか。

神田 何？

村上 何じゃないよ、先生、もうすぐ着くからって、全員集まってる。

木町 大佐（おおさ）先生！

村上 そうそう。

神田 懐かしー。

村上 で、男二人でなにやってたの？

木町 え？

神田 男二人？

村上 なに、どっちか一人は女子だったーとかそういう話？

木町 いや、違うけど。

神田 村上さん、今、誰と喋ってる？

村上 木町くん、と、神田くん、だけど？

木町 森山は？

村上 森山くんは連絡付かないはまだよ。なに？

木町 いや…。

神田 いい…。

村上 じゃあ、早いトコ戻って来てよ。

木町 ああ。

神田 うん。

村上、立ち去る。

木町と神田、森山を見る。

木町 森山、お前…。

神田 どういうことなん？

木町 何が、あつた…のかなあ？

神田 うん。

森山 あー、ね、最後までバレたくなかつたんやけど。

木町 バレる。

神田 お前は今…。

森山 死んだんだよ、おれ。

木町 おー、ね。

神田 そうなんだろうなとは思ったけど。

木町 海外で。

森山 リビアって国で、内戦に巻き込まれて、流れ弾に、運悪く。

神田 それ、家族は？

森山 まだ知らないと思う。死んだばかりだし。

木町 一昨日！

森山 時間の感覚が分かんないけど、だいたいそれくらいだと思う。

神田 何でお前、ここに来たんだよ。

森山 約束したろ。二十歳になったら会おうって。タイムカプセル掘り出そうって。

木町 ああ。

神田 すまん。

森山 俺も忘れてたんだよ。

木町 え？

森山 放浪するのが楽しくって。日々、ギリギリで生きてて。そんなことすっかり忘れてた。

神田 でも、思い出した。

森山 死んだとき、過去の風景が走馬灯のように流れるってホントなんだよ。そこで。

木町 小6の春の風景が。

森山 テレビとか録画してたのを高速再生してて、あー今！みたいに一時停止を押すみたいな。そうだ、

俺、今、二十歳だ、そう言えば同窓会のメールが来てた、って思ってたら。

木町 すまんな。

森山 え？

木町 俺らこんな、何にもなつてなくて。あ、神田は目指すものとかあるけど。

神田 ぜんぜん、まだ途中だし、あ、いや、まだ、そのスタート地点にも立ってないし。

森山 いつ死ぬか分かんないんだからさ、頼むよ。

木町 お前が極端なんだよ、そんなトコ行くから。

森山 日本に居たって、ある日突然交通事故で死ぬこともあるだろ。

神田 だな。明日は分かんないもんな。

森山 木町はさ、今は何も無いかも知れんけどさ、そのうち何か見つかるって。

木町 不安なんだよ。何も見つからないんじゃないかって。

森山 生きてれば、チャンスはある。

木町 おれ、死んでるようなもんなんだよ。ただ生きてる。学校もつままない、バイトもつままない、

そろそろ就活もしなきゃだけど、ぜんぜん働いてる姿が想像できない、ぜんぜん生きてるって実

木町 感がない。

神田 俺だって。夢を追い掛けてるみたいに見られるけど、その夢の国の扉は、ごくごく一部の人しか入れない。めちゃくちゃ狭き門なんだよ。知ってたんだけどね、声優って職業が狭き門だって、確率で言うところ3%、百人目指してたとして、そのうち3人しかなれない。97人はなれない。その狭き門に入り込むには才能とか運とかが要るらしい、努力や実力だけじゃどうにもならない世界がある。

木町 でも、もうやるって決めたんだろ？

神田 決めたんだよ。

木町 おれは何も決められないまま、宙ぶらりんのままだ。

神田 決めたんだけど、自分やっぱ無理だよって思うんだよ。怖いんだよ。お前みたいに無難な大学に行っとけばよかったのかもって、あとから何度も思った。俺、間違っただんじやないかって。

森山 俺は自分の生き方を間違っただとは思って無いよ。終わるのがだいぶ早くなってしまっただけで、そりゃ悔しいけどさ、やりたいこともまだまだあったし、見てみたい風景、会ってみたい人、できてないことが多過ぎるけど、これは俺の選択した道を歩んだ結果なんだ。

木町 こんな情けない大人になっただとは思わなかったな。

神田 あの、無邪気に夢を描けた頃が懐かしいわ。

森山 生きてるだけで十分だろ。

木町 お前にそれ言われたら、何も言えんわ。

森山 俺の分まで生きてくれよ。

神田 そういうのやっぱ言うか。

森山 言うよ。

木町 映画とかドラマとか、死んだヤツが言うんだよ、俺の分まで生きろって。

森山 死んだヤツはだいたいみんな言うだろうよ。

と、空に月が上っているのを木町が見つける。

木町 あ、月だ。

神田 赤い…三日月。

木町 あれ？これ昔、似たようなのなかったか？

森山 これだろ？

と、森山はポケットから子どもモノの筆箱を取り出す。

神田 ん？

森山 タイムカプセルに入れてた、アイテム。

木町 筆箱に…三日月が。

神田 描いてある…、え？

と、フシギダネの絵を取り出す。

神田 フシギダネ。

森山 月が。

木町 (消しゴムと取り出して) 蚊が焼いてる。

3人で 不思議だね、月が、輝いてる！

彼らの中で、何かが一致する。

神田 小6の春、3人でこうして夕方を眺めていた。

森山 空には赤い三日月が。

木町 不思議だな、何で月は輝くんだろう。

神田 それは太陽の光が月に当たって、地球からはあんな感じに見えんだよ。

木町 そうなんだろうけどさ。

森山 不思議だね。

神田 僕らは3人だけで。

木町 こっそりと宇宙の秘密に触れた。

森山 その秘密を心に刻んだ。

神田 この、今のこの月を、覚えておこう。

木町 もし忘れてもいいように、記憶を復活できるように。
森山 タイムカプセルに、ヒントを描いて入れておこう。

神田 すっかり忘れてたけど。

木町 でも、復活できたな。

森山 俺が来なかつたら、謎のままだったぞ。

神田 いや、この月を見たら思い出しただろ。

木町 月を見たら、な。

森山 俺、行くわ。

神田 月に？

森山 な訳ないだろ。

木町 流れるになあ、月かと思うよなあ。

神田 そうだよ。

木町 また、十年後くらいに会おうよ。

神田 お、いいね。

木町 それぞれ人生の行く末を。

神田 この月のしたで、報告しようではないか。

森山 俺は来れるかどうか分かんないぞ。

木町 え、そこ、難しいん？

森山 どういうシステムになってるか分からんし。

神田 まあ、もし、来れたら。

木町 三十歳だな。

神田 三十路に突入してて。

森山 結婚とかしてんじゃないの？

木町 おー、想像つかんわ。

神田 森山は二十歳のままか。

森山 俺の十年分、頼んだぞ。

木町 分かった。

神田 任せろ。

森山 じゃあな。

と、神田が母校の校歌を歌い出す。
つられて木町、森山も歌う。

♪ひかりあふれる 田ノ上を

渡るそよ風 学び舎に

望みは高く 目をひらき

友よ未来に 栄えあれ

たくまし みどり中央校

ああ きり拓け わが母校

森山、立ち去る。

そこに村上が再び呼びに来る。

村上 まだ居た。何してんの？

神田 え？あ…。

木町 月が。

村上 月？

神田 不思議だね。

木町 月が輝いてる。

村上 え？…あのさ、早く来てよ。

神田 ああうん。

村上 みんな待ってんだから。

木町 (月に向かって) お前も顔出したら？

村上 はあ？

神田 行くぞ。

木町 ああ、行こう。

神田と木町は意気揚々と歩きだし。

村上 え、ちよ、何なの？

村上はその後を追って、立ち去った。

おしまい。

【上演に向けての補足】

*男女逆転（女3人、男1人）に書き変える事も可能だと思います。

*劇中のサッカーワールドカップのエピソードは演じる人の世代によって更新してもらっても良いと思いますし、女性版にするなら「なでしこジャパン」にするなど工夫してください。

*終盤に歌われる校歌はオリジナル歌詞ですが、馴染みのある（例えば自身の母校の）校歌に置き換える事も可能だと思います。

*台詞が北九州地方の方言で書かれているのですが、演じる方々それぞれの言葉に置き換えていただけると良いのかなと考えます。